2023.4.10教務委員会

2022年度 修士２年生対象　修了時における学修成果に係る自己評価アンケート結果

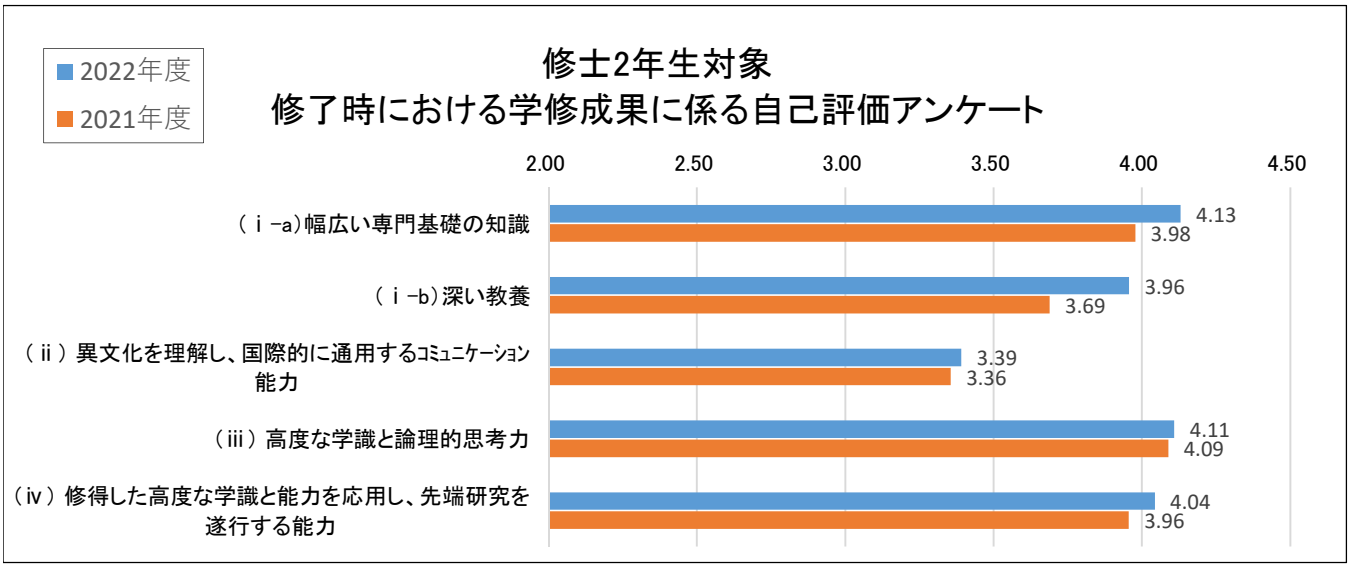
【設問】本学修士に入学後に学んだこと、経験したことを振り返り、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に掲げている能力や知識が、どの程度身についたかを回答してください。（2023年2月調査実施）

＜主な活動・出来事＞
講義科目(専門科目)、主専攻・副専攻履修、教養科目(科学・技術と人間・社会、各種講演会)、英語科目(科学技術英語・海外英語演習)、TOEICスコア、E-SUP制度、iPlaza活動、外国人研究員等との交流、定期試験、レポート作成、課外活動（同好会・天樹祭・アクティブチャレンジ等）、国際寮での生活、TA実習、教員の研究指導、学会発表、論文投稿、修士学外実習(国内・国外)、TTIC留学、研究室セミナー、修士研究、修士論文作成、研究発表会、就職活動　など

【回答集計】

2022年度　　回答率100%（回答者数46名／修了者数46名）

	身についた（5点）	まあ身についた（4点）	どちらとも言えない（3点）	あまり身につかなかった（2点）	身につかなかった（1点）	回答者数（人）	平均（5段階評価点）
（ｉ-a）幅広い専門基礎の知識	16	21	8	1	0	46	4.13
（ｉ-b）深い教養	12	21	12	1	0	46	3.96
（ii）異文化を理解し、国際的に通用するｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力	8	15	14	5	4	46	3.39
（iii）高度な学識と論理的思考力	15	22	8	1	0	46	4.11
（iv）修得した高度な学識と能力を応用し、先端研究を遂行する能力	14	23	6	3	0	46	4.04



【結果考察】
・学部4年次にコロナ禍での研究活動開始。学部4年次は出校制限があり、研究活動は8/17以降となり大きな影響を受けたが、修士進学後は対面での研究活動実施。学外活動では、オンラインでの学会活動が増加した。
・国際的ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの項目は、コロナ禍で海外留学や学会の参加が制限された影響もあるが、学部4年生へのアンケート結果とほぼ同様の傾向が見られる。
・前年度よりやや上昇傾向が見られる。